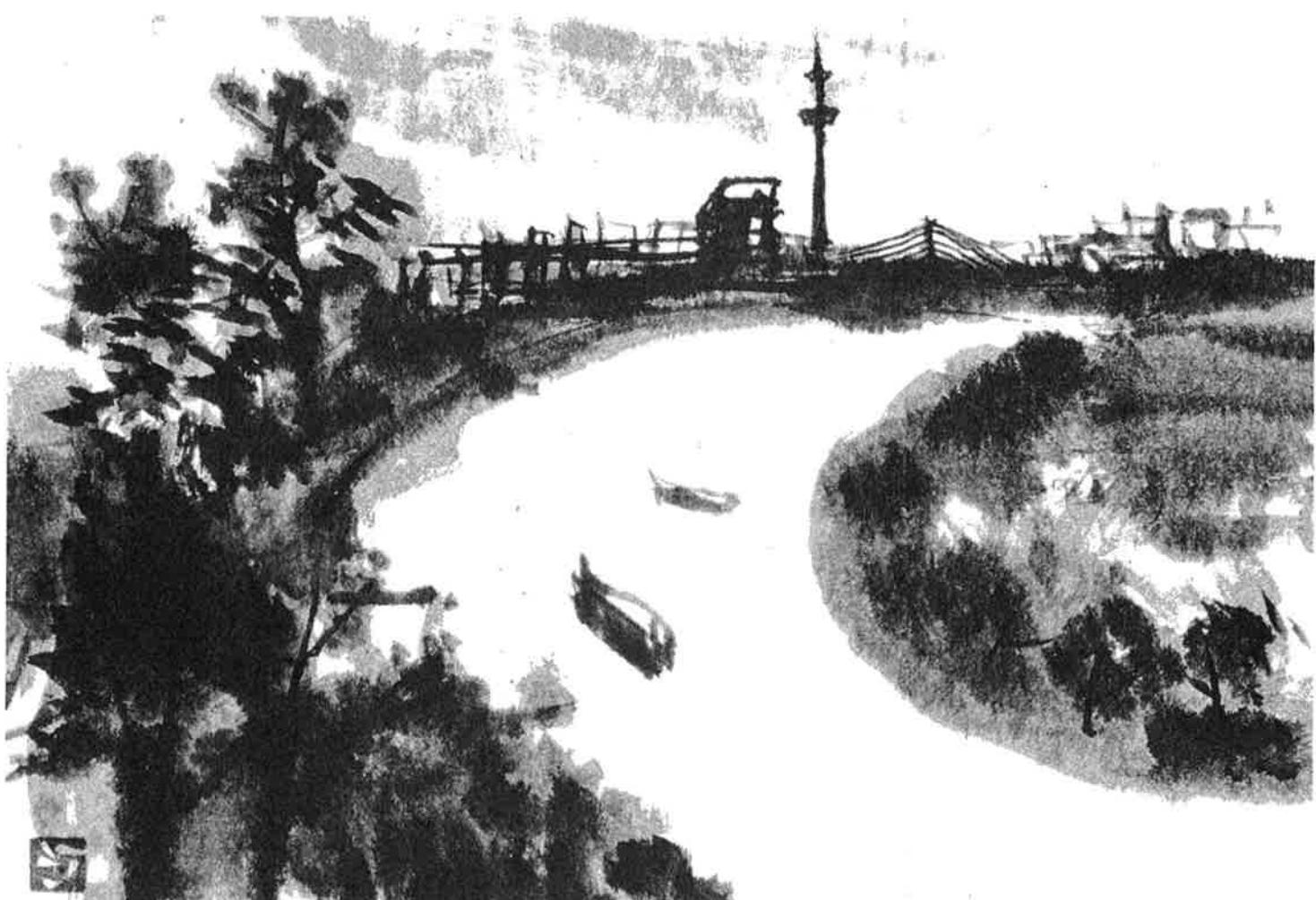


# ア! 安全・快適街づくりニュース

2012年6月 vol.18 2011年度総集編



日本川に相応し  
風景  
平成23年元旦  
筆者：日向風景  
写真：日向風景  
題名：風景  
撮影者：日向風景  
日向風景

.....目次.....

□ 東日本大地震(3・11)から何を学ぶか	01
□ 2011(平成23)年度 活動状況について	02
□ 育てよう深めよう「新しい公共」～5つの展開	03
□これまでの紹介(全国まちづくり会議展示パネル)	04-05
□ シンポジウム 「街を、暮らしを、みんなでどう守るか ～大規模災害に備えて～」	06
□ 葛飾区立上平井中学校の理科部とコラボレーション 「水災害の研究」 ー泣いて笑って深まる絆～友情のハーモニーを奏でよう～	07
□「水災害の研究」全国特別活動研究会に選抜参加	08
□ 中学校の防災授業のサポート	09
□ 葛飾区有形文化財に登録された古井戸 ー地盤沈下の生き証人ー	10
□「市民防災まちづくり塾」会員からの見学会報告 ー第61回利根川水系連合水防演習ー	11
□ 平成24年度葛飾区協働事業の体制づくり 「親から子に語り継ぐ大水害時の避難とパネル展示」について	11
□「全国まちづくり会議 in 熊本」に参加して感じたこと	12
■惜別 赤穂邦美さん	13
□「新小岩北地区・ボートを活用した防災訓練」(予告)	14
□ 24年度のシンポジウムの日時と会場を確定(予告)	14
□ 表紙の紹介・編集後記	15

## 東日本大地震（3・11）から何を学ぶか

理事長 石川 金治

内閣府有識者検討会は、「南海トラフ」最大級地震の想定を2012年3月に発表した。この想定は、最悪ケースをつなぎ合わせた予測値で、過去の地震被害から類推した現在の被害想定と比較して大きな被害が起きるとしている。

新しい想定の大きな地震でも壊れない堤防や橋や建物などを短期的に作ることは不可能であり、命を守る手段として、避難対策がクローズアップされている。

避難に関心を持っている人たちの間で流行語になっている「津波てんでんこ」は、家族や友人・知人の安全を気にしながらも、最後は自分の身を守ることに専念しようという考え方である。繰り返し津波被害を受けた被災地で培われた「津波てんでんこ」ではあるが、これを実行できた人と、できなかつた人がいる。その差はこの格言の継承に努めたか否かによる。釜石小学校の生徒184人は、下校後で地震時の居場所はばらばらであったが、生徒自身の判断で行動して、全員が助かった。それを「釜石の奇跡」とマスコミは言うが、校長は生徒が一人ひとり「当たり前のことを当たり前に」実行した結果であると述べている。更にその原因について、「防災教育」だけでなく、親子の間や地域の人たちとの「絆」、状況に応じて臨機の判断をした生徒の「心」であると言及している。

私達の活動も点から線へ・面へ・立体へ更に時間軸を入れた3Dへと広げていきたい。

次に、長期的対策として、逃げる必要のない「耐水性の高い街」、「賑わいのある楽しい街」、「子育てのし易い街」、「年配者の暮らし易い街」を創り、「東京一番の街」を目指して活動したい。当面の課題として、川に囲まれたゼロメートル地域は、発展する時も、廃れる時も、いのち永らえる時も、皆同じ経験をする「運命共同体である」ことに着目して、住民・企業・行政・学校及びそれに関連する町会・商工会・商店会・PTAなどの組織を一縷めにして、前記の課題を話し合う「輪中会議」の立ち上げに向けて努力していきたい。

## 23年度総会結果と活動状況について

事務局長 宇賀俊夫

23年度の総会は6月19日に開催されました。開会に先立つ講演は、当NPOの理事でもある東京大学の加藤先生による「東日本大震災を契機に自然災害のリスクを冷静に捉えてみる」と題する講演でした。加藤先生は今度の震災は広域被害を想定していなかった災害基本法等では対応できなかつた広範囲にわたる大きな災害をもたらしたものだったこと、復興基本法もなく政治のリーダーシップない中で、どのように復興を進めていくかボトムアップで考えざるを得ない状況にあるが、本来社会の求める安全とは人々の命を守ることを最低限に、それに加えて立ち直れないほどの被害にならないようすることだと指摘した。また、復興に当たっては短期と長期の対策のバランスを取ることが必要で、今後想定外への対応は、対策がうまくいかなかったときでも次の対策が準備されていること、いわゆるフェイル・セーフの考えが必要であり、想定以上の被害が出ても、もう一度元に戻れるための対策が準備されていることが肝要との指摘がありました。

総会では全ての議案が提案通り承認され、それを受け23年度は次の活動を実施してきました。

- (1) 東日本大震災を受けて葛飾区と共同で設立した「葛飾区西新小岩3丁目周辺地域をモデルにした安全・快適街づくり勉強会」の名において、「広域ゼロメートル市街地安全・安心創出対策推進」のための緊急提言を行ないました。
- (2) 内閣府提示の「新しい公共支援事業の実施ガイドライン」に規定されている「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に葛飾区、広域ゼロメートル市街地研究会、新小岩北地区連合町会、NPO「日本都市計画家協会」と共同で「新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」を設立して応募し、採択されました。この協議会では勉強会で今後の課題として挙げられた4項目のうち、安全・安心プログラムと近隣関係継続計画の作成を行い、地域の様々な担い手が協働して取り組む組織「輪中会議」の立ち上げ目標としています。事業は23、24年度にわたり実施することになっています。
- (3) 協議会の活動の一つとして足立、葛飾、江戸川三区の住民の皆さんを対象とした「街を、暮らしを、みんなで守る～大災害に備えて～」と題するシンポジウムを24年3月18日、江戸川区の総合文化センターで開催しました。会場が満員となる有様で、上平井中学理科部の皆さんによる「水災害についての研究」発表や、新小岩北地区連合町会の会長さん達や三区の防災を担当する部署の部長さんによるパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場から防災・減災に取り組んでいる状況についての報告も行われ、盛況裏に閉会しました。また、会場ロビーに展示した当NPOの災害関連情報パネルや、荒川下流事務所提供の河川関連パネル、葛飾区博物館提供のパネルなど好評でした。
- (4) この他、協議会では上平井中、二上小、新小岩学園の3学区内の避難所自主運営委員を対象に勉強会を開催するとともに、新小岩学園、上平井小、上平井中の防災教育に関する出前講座を開催しました。
- (5) 葛飾区との協働事業について応募し、24年度の事業として採択されることになりました。これが3回目の採択となったわけですが、今回は災害時の避難について小・中学生に親子で話し合ってもらい、その結果を学校での災害発生時の避難・帰宅方法の参考にすることを狙いとしています。
- (6) その他、国際交流、ワークショップ、葛飾区有形文化財とした「古井戸」の保存活動が実ったことや、全国まちづくり会議への参加で多様な方々との出会いや、交流などが在りました。

24年度も引き続き協議会としての活動を続けると共に、葛飾区との協働事業や、新小岩北地区連合町会が応募する東京都の「地域の底力再生事業」に協力してまいります。引き続き協働のほどお願いします。

## 育てよう深めよう「新しい公共」～5つの展開

理事 加藤孝明(東京大学生産技術研究所)

新しい公共の場づくりのためのモデル事業(東京都新しい公共支援事業)に採択されたことを契機に、平成23年度続けてきた「葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会」を母体に「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」の立ち上がり、NPO、新小岩北地区連合町会、区、私たち大学人が連携し、様々な活動を始めています。3月のシンポジウムの開催、地域や学校での講演会の実施等、この一年間で様々な展開を見せています。

協議会が目指す方向、解決すべき課題は、次の「5つの展開」と考えられます。

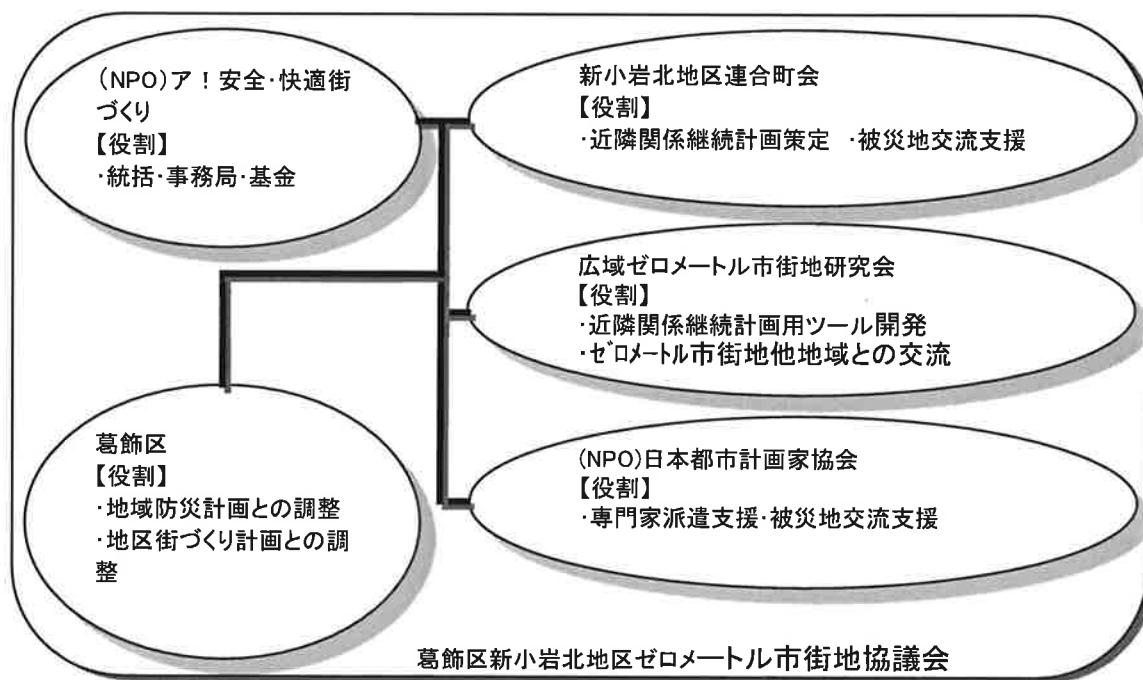
**第一は、町会内部への展開**です。すでに通算5年以上に渡ってワークショップやシンポジウム等、継続的に活動が進められており、地域の力は着実に強くなっています。しかし、その活動は町会の一部のメンバーに限られているのも事実です。町会の役員を含め、町会内部に浸透させていく必要があります。

**第二は、学校や保育園等、町内にある地域を基盤とする組織への展開**です。活動を町会内だけにとどめるのではなく、地域で活動する他の組織に波及させ、連携、協働する必要があります。そうすることによって一つの大きな地域の力にしていくことが重要だと思われます。

**第三は、関心を持たない層への展開**です。こうした層の本格的な参画は期待できませんが、いざとなったときに動いてもらうために平時からの関係づくりが必要です。また長期的に視点に立てば、定年後、次の時代の担い手として大いに期待できます。

**第四は、他の地域への展開**です。大規模水害になれば、近隣地域も運命共同体です。新小岩北地区連合町会が培った蓄積を近隣地域にも展開していく必要があると思われます。

最後に、以上の4つの展開に加えて、「防災【だけ】まちづくり」から「防災【も】まちづくり」への展開を考えていく時期に入っていると思われます。防災、つまり、マイナスをゼロに近づけるというアプローチから、ゼロを越えてプラスにするという視点をもつ必要があります。「防災」で培った地域の力を活用し、福祉や親水等、この街を快適にしていくという総合的な視点を活動の中に取り入れていくとよいと考えられます。活動の持続性を高めることにもつながっていくと考えられます。以上の5つの展開を意識し、今後の協議会活動を進めていきましょう。



# 広域ゼロメートル市街地研究会 + (NPO) 法人 ア！安全・

## 「広域ゼロメートル市街地」とは？

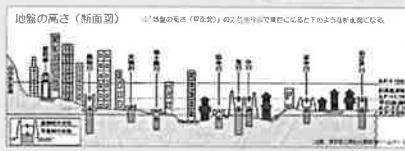
東京、大阪、名古屋には地下水の過剰な汲み上げに伴う地盤沈下によって水面下となった高密、広域の市街地（「広域ゼロメートル市街地」）が存在する。ハリケーン・カトリーナによって水没したニューオリンズのように、広域ゼロメートル市街地で大規模水害が発生した場合、甚大な被害が生じることが予想される。また、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）（2007年）によると、将来の海面上昇、台風の大型化、極端な気象現象の増加が予測されている。今後、徐々に増加する水害リスクに対し、広域ゼロメートル市街地では何らかの対策を講じる必要がある。

### 私たちが住んでいるところはこんなところ

広域ゼロメートル市街地は、地下水の過剰な汲み上げによって地盤が沈下したため、水害に対する危険性が高まってしまった地域である。

荒川浸水想定区域図によれば、概ね200年に1回程度起こる大雨で荒川が氾濫した場合、足立区、葛飾区、江戸川区、墨田区、江東区は、ほぼ全域が浸水するとされている。この地域には、約200万人が居住している。

このなかでも、葛飾区、江戸川区、墨田区、江東区の荒川沿川地域では、干潮面よりも低い地域がみられる。干潮面以下での地域、満潮面以下の地域、高潮の危険に晒されている地域は、それぞれ31km<sup>2</sup>、124km<sup>2</sup>、255km<sup>2</sup>にもおよぶ。



### 洪水ハザードマップと避難

近年相次ぐ水害を受けて、2001年、2005年に水防法が改正され、自治体は、浸水想定区域や避難場所を明記した洪水ハザードマップを作成・公開することが義務づけられている。

しかし、葛飾区荒川洪水ハザードマップを見ると、区内では避難場所を確保することができないため、沿川の大半の地域では、松戸市や市川市まで避難せざるを得ない状況である。荒川が氾濫した場合、葛飾区では44万人のうち、28万人が避難するとされ、大移動が見込まれているが、はたして実際に避難することができるのか、乗り越えなければならない課題が山積している。



### 安全で快適なまちをめざして

新小岩北地区では、2006年から、NPOア！安全・快適街づくり、新小岩北地区連合町会、専門家（「広域ゼロメートル市街地研究会」）の3者が一体となり、行政、地域の小・中学校とも連携して、広域ゼロメートル市街地における大規模水害への備え方を検討するため、様々な取り組みを行っている。



### 新小岩北地区におけるこれまでの取り組み

新小岩北地区では、地域の水害リスクを理解するため、ワークショップのためのシンポジウムの開催、パネル展示、まちづくり会議への参加など、子どもと共に地域の安全・快適まちづくりを考える活動に



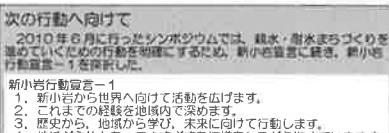
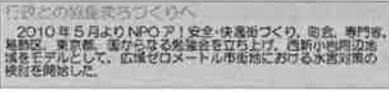
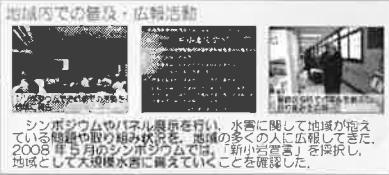
# 快適街づくり

## の取り組み

ツを行い、具体的な対策を考えてきた。地域での取り組みを広げ国際交流等も行ってきた。世代を超えた取り組みの持続性を高め取り組んでいる。



流域の水害リスクや行政の防災体制の現状を勉強した。それらを踏まえ、水害発生時に質んだ自助・共助のあり方、被災生活のイメージ、水害に強い市街地の目標像を議論、検討してきた。

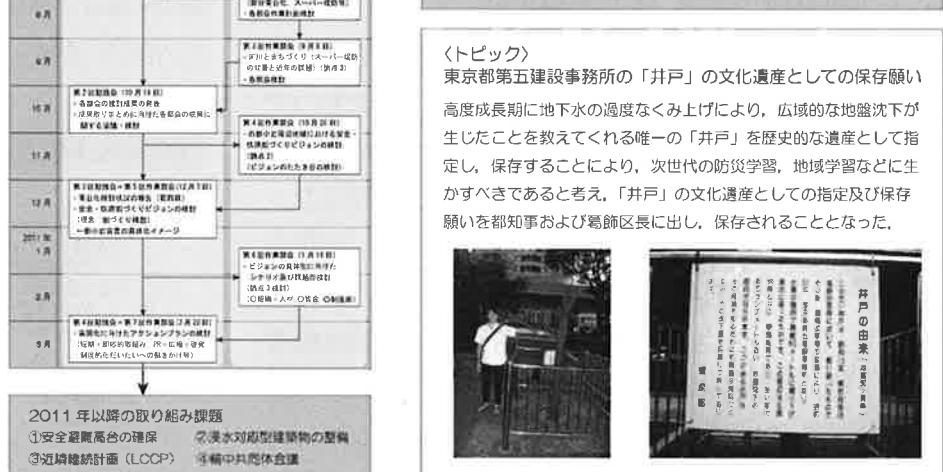


# 全国まちづくり会議 2011 in さいたま

## 地域・専門家・NPO・行政の協働による対策の検討

### 「葛飾区西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会」

この勉強会は、これまでの取り組みを生かし、NPO、住民、専門家、行政が連携し、「新しい公共」として、当該地域における治水対策に対し、自由な意見交換により、現状を発展的に進展させるための考え方を整理し、地域のニーズにあった対策を提言するために、2010年5月に設置されたものである。



### トピック

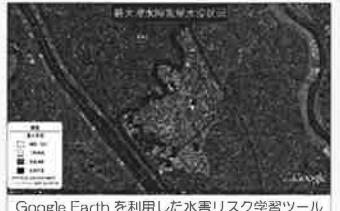
東京都第五建設事務所の「井戸」の文化遺産としての保存願い  
高度成長期に地下水の過度なくみ上げにより、広域的な地盤沈下が生じたことを教えてくれる唯一の「井戸」を歴史的な遺産として指定し、保存することにより、次世代の防災学習、地域学習などに生かすべきであると考え、「井戸」の文化遺産としての指定及び保存願いを都知事および葛飾区長に出し、保存されることとなった。



## 地域主体の活動への展開

### 大人から子どもへ（第8・9回 WS）

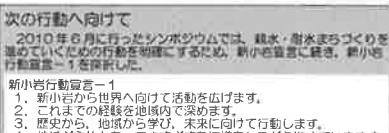
専門家が、地域の人が水害リスク情報を学習するためのツールを開発し、このツールを利用して、地域の大人と子どもが一緒に学習するWSを行った。



### 学校が動く！

第8・9回 WSで地域の水害リスクについて学んだ上平井中学校の生徒たちが、今回の東日本大震災で被災した人たちのために、街頭募金を行った。また、彼らは WSで学んだことを契機として、地域の抱える水害リスクを自分たちの目で観察するまち歩きを行っている。今秋の学校の文化祭で、PTAや全校生徒に向けて、彼らが学んだ地域の水害リスクや自分たちで考えた地域への提言を発表する準備を進めている。

新小岩北地区のその他の小中学校においても、PTAと地域が一体となり、地域の水害リスクに関する知見を広める活動を始めようとしている。



このパネルに関するお問い合わせは、広域ゼロメートル市街地研究会、もしくは、NPO A! 安全・快適街づくりまでご連絡ください。

広域ゼロメートル市街地研究会  
〒153-8505 東京都墨田区駒込4-6-1 Bw605  
Tel: 03-5452-6474, FAX: 03-5452-6476  
<http://kato-sss.sis.u-tokyo.ac.jp/zero/top.html>

NPO A! 安全・快適街づくり  
〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩3-5-1  
FAX: 03-3696-7480  
<http://www.banktown.org>

パネル製作：佐藤、渡邉、中井（広域ゼロメートル市街地研究会、NPO A! 安全・快適街づくり）

## シンポジウム

### 「街を、暮らしを、みんなでどう守るか ～大規模災害に備えて～」

中村 仁

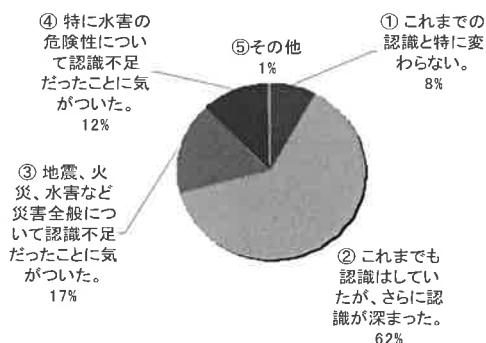
2012年3月18日の日曜日の午後(13時半～17時)、江戸川区総合文化センターにおいて、シンポジウム「街を、暮らしを、みんなでどう守るか ～大規模災害に備えて～」が開催された。本シンポジウムは、“街を、暮らしを、みんなでどう守るか”を考える実行委員会が主催し、国土交通省荒川下流河川事務所の共催、東京都建設局、足立区、江戸川区、東京大学生産技術研究所・都市基盤安全工学国際研究センターの後援を得て実施したものである。また、実行委員会の事務局は「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」が担当した。

シンポジウムでは、最初に、葛飾区立上平井中学校の理科部(中学生)から、「水害についての研究」報告がなされ、続いて、東京大学生産技術研究所・加藤孝明准教授から「私たちが住む街」と題する基調講演が行われた。さらに「地域・NPO・行政の減災への取り組み」として新小岩北地区連合町会(鈴木一喜氏、赤穂邦美氏、中川榮久氏の各町長)、NPO 法人ア！安全・快適街づくり(石川金治理事長)、国土交通省荒川下流河川事務所(小島優所長)、足立区都市建設部(岡野賢二部長)、葛飾区都市整備部(濱中輝部長)、江戸川区土木部(淺川賢次部長)による各報告と意見交換が行われた。

シンポジウム会場は、定員 200 名の座席がほぼ満席となり、大盛況であった。終了後の参加者アンケートから推定すると、葛飾区民が全体の 55%、江戸川区民が 35%、足立区民が 5%、その他 5% 程度の割合となっている。内容面では、自分が住んでいるまちの災害時の危険性について、「これまで以上に認識を深めた」、「認識不足だった」という回答が合わせて 9 割以上に達し、参加者ひとりひとりが「街を、暮らしを、みんなでどう守るか」を考える良い機会になったものと確信する。ただし、60 歳代以上の参加者が 7 割以上となっており、もっと若い世代の参加を得ることが今後の課題と言えよう。

**シンポジウムの趣旨**「3・11東日本大震災は、人間に自然の猛威を見せつけた。私たちが暮らす街も、首都直下地震や気候変動による大規模水害などの脅威にさらされている。尊い命を、私たちの街を、暮らしを、歴史や文化を、自助・共助・公助の連携でどう守るか、今こそ地域や世代を越えて広く課題を共有し、新たな視点で事前の策を考え、行動していかなければならない。荒川以東にあって、足立、葛飾、江戸川3区は、歴史的に水害の脅威を体験し、治水を旨として河川とも向き合って都市のあり方も考えてきた。しかし、あらためて、東日本大震災を受けて課題を共有し、「街を、暮らしを、みんなでどう守るか」を考える」というものである。

グラフ:街を、暮らしを、みんなでどう守るかを考える良い機会になった



### .....3月18日宣言文..... 「ゼロメートル市街地の安全・安心・持続可能な豊かな暮らし現に向けたまちづくり宣言」

ゼロメートル市街地の安全・安心・持続可能な豊かな暮らし実現に向けて、地域住民・NPO・研究機関・専門家・行政など多様な主体が連携して、次のことを行うことを宣言します。

- 1、多様な主体が連携して先進的な取組みを推進していきます。
- 2、多様な主体が連携して地域社会全体での知恵の共有を進めます。
- 3、多様な主体が連携してゼロメートル市街地まちづくりネットワークの構築と情報発信を行います。

## 上平井中学校の理科部とコラボレーション

### 「水災害の研究」

一泣いて笑って深まる神～友情のハーモニーを奏でよう～

渡邊喜代美

次世代への継承として、ワークショップ(WS)や国際交流に参加して一緒に勉強してきた葛飾区立上平井中学校の理科部の「水害の研究」は、大変レベルの高い発表であった。

#### 【活動プロセス】キーワード：深める・広める・次世代へ継承する・防災もまちづくり

「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」はその活動の一環として次世代へ地域の問題や、活動をどのように継承し、発展させていくかが課題となった。当 NPO、広域ゼロメートル市街地研究会(ゼロ研)が主催した WS や国際交流へ中学生の参加を促して、意識啓発を図ってきた。



地域の方々と中学生の浸水シミュレーションの勉強会風景

その過程で「防災と人のつながり」「地域の水害リスクを観察する」など中学生たちは WS から宿題を持ち帰って、2011年の夏休みに「理科部」で取り組んだ。

中学生にとって3・11東日本大震災の記憶は鮮烈で「地域の水害リスクを観察する」「人のつながり」などの課題に取り組みつつ、募金活動にも取り組んだ。

理科部の学生たちは、自分の住む地域の水害リスクを考えるために街を歩き、観察し、地域の人たちの話を聞き、加藤研究室提供の GIS による浸水シミュレーションのデータを活用して「水災害につ

いて」研究をまとめた。

協議会メンバーでもある東新小岩7丁目町会長の中川栄久氏は中学生にとっては、学校の先生と一味異なった地域の知識人で、中学生の歩学のよきアドバイザーとなつた。

#### 【すばらしい成果】キーワード：学んだことを他の人に伝える・繋げる

2011年10月29日：理科部の発表は、浸水シミュレーションを活用し、現場を歩いた観察とあわせ、被災地にも思いをはせ、説得力ある発表内容であった。幼いころからの住み慣れた街への愛着、災害への備えの気持ち、調べたこと・学んだことを伝えたい熱意が重なって、同窓生や参観の大人たちに感動を与える研究発表となつた。体育館一杯に集まつた生徒諸君は真剣に理科部の発表を聞いた。住み慣れた、見覚えのある街の地図上の浸水シミュレーションによる発表と歩学の成果と被災地のことが重なつてみえたのであろう。

発表者と聞き手の学生たちと、参観した NPO やゼロ研のすばらしいコラボレーションで体育館は気持ちの良い緊張感が漂つていた。殿村校長先生は、生徒たちが「こんなに静かに前のめりで聞くとは想像以上であった」という。

学生にとって、一方的な講義より、学んだことを学生同士が教えあつたり、他の人に伝えたりする活動的な学習は、飛躍的に学習のモチベーションが上がるといわれている。

“力強い後継者たち”！このモチベーションが家族や地域の中で活かされ、深める・広める・継承する、繋がることを期待したい。



浸水シミュレーションを活用した理科部発表風景(上平井中講堂)

## 「水害の研究」全国特別活動研究会に選抜参加

### 全国特別活動研究会に参加するまでの経緯

大道中学校 校長 殿村靖廣  
(元上平井中学校校長)

今年度第56回全国特別活動研究協議大会東京大会が8月9日(木)~10日(金)に開催されます。今回のテーマは、「強い心を築く特別活動」を主題として「自分の良さに気付き、生きる自分への自信を持たせ、前向きに生きる力をはぐくむ集団活動」となっています。

上記の研究会には、殿村が中学校の事務局次長を務めています。事務局から「生徒による発表」の部分で該当する生徒会はないだろうかと、連絡が入りました。

私は、上平井中学校の生徒会が取り組んできた「水害の調査研究」は広域ゼロメートル市街地研究会やNPOア!安全快適街づくりのワークショップで学んだことを、自分たちの問題として取り組み、歩学し、調べたことを全校生徒や関係機関のシンポジウムにおいて発表することで自信と誇りを身につけてきました。そして、さらに新たな課題に対して取り組もうとする姿勢は、まさしく、「生きる力」そのもので、今回の全国特別活動研究会の大会テーマに沿った取り組みになっていると思っています。

そこで、上平井中学校の取り組みについて話をしたところ、是非、出演してほしいとのオファーが入り、今回の運びとなりました。

//////////  
**発表日:2012年8月9日 13:00~14:00**

「強い心を築く特別活動～自分のよさに気付き、生きる自分への自信を持たせ前向きに生きる力をはぐくむ集団活動」

**場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター  
— カルチャーライフ・大ホール**



人災有り、天災有りと、様々な生息の一端後にどのような泥沼が待ち受けているか、先行合不適的な毎日です。本大会では、今、改めて特別活動の特質である「豊富な事が活動」のあり方を思い出し、誠意活動だからこそはぐくむことのできる「力」に目を向けてます。協同や協議を繰り返し、仰々とともに生きる目標と、生きる意志、そして生きる喜びをもつ「強い心」を築く特別活動の在り方を提案したいと考えています。

研究会の中でも、これから特別活動について共に盛り合い、「毎日の実践」に協力してられるように学び合い、発表していきましょう。皆様お問い合わせのと、ぜひご参加ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

平成24年 8月9日(木)・10日(金)  
国立オリンピック記念青少年総合センター

### 強い心を築く特別活動 ～自分のよさに気付く、生きる自分への自信を持つ 前向きに生きる力をはぐくむ集団活動～

会場: 東京都墨田区横網1丁目1番1号 国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャーライフ・大ホール

受付	開会・講話	特別活動	講演Ⅰ	体験	児童・生徒の発表	講演Ⅱ	高齢者	総合会場	レセプション
9:00-9:30	10:00-10:50	11:00-13:00	14:00-15:00	16:00-17:00	18:00-19:00				

講演Ⅰ 「強い心を築く風景活動」(仮題) 講師 畠山 リカ 先生 雨森真樹 風景心理士 立教大学精神心理学部助教	児童・生徒の発表 駒馬屋の部屋を通して強い心を築くことで君に先進会・立派な実績の発表。意見交換会も予定しています。	講演Ⅱ 「強い心を築く特別活動」 講師 寺田 洋 先生 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科担当官
---	--	--

\*決済は現金です。現金案内にて詳細を説明いたします。

研究会は全国の先生方、文部省も参加するなど大人の会議。理科部の発表を拝聴するに当たっては事前に登録が必要です。つきましては6月23日NPOア!総会の日に集約します。

下記写真は、昨年の理科部の校内発表のときの提言とコメントテーターをつとめる中川会長。少年消防隊制服を着用しているのが生徒会長の中村隆三くん。中村くんは「東日本PET緊急救援チームの少年団」でも活動している。



## 中学校の防災授業のサポート

塩崎由人

当NPOでは、2011年度に地域の中学校での防災授業のサポートも行ってきました。

2011年10月26日に、当NPO会員の中村氏(東京大学生産技術研究所・特任研究員(当時)現芝浦工業大学教授)が新小岩学園から依頼を受けて出前講義を行いました。これは災害時の身の守り方の学習を目的とした保健体育の授業のうち15分間で、地域の抱える地震、火災、水害の危険性について説明したものです。この授業自体は、葛飾区教育委員会が定期的に視察を行う「指導室訪問」というプログラムの一環として行われました。短い時間でしたが、生徒も参観していた先生方、教育委員会の方々も熱心に聞いていました。



また、上平井中学校では理科部(別途報告参照)が学芸祭で地域の水害の危険性を発表することで、新小岩北地区の浸水シミュレーションのデータを提供しました。学芸祭本番では、中学生たちがそのデータを見事に活用したプレゼンテーションを行い、全校生徒は熱心に聞いていました。地域での活動の輪を広げていくうえでも、今後もこのような地域の小中学校との連携が重要です。

## 避難所運営会議とミニシンポジウム

塩崎由人

新小岩北地区の上平井小学校、二上小学校で行われた昨年度の避難所運営会議では、主体と

なる各町会が東京大学生産技術研究所・加藤孝明准教授を講師として招いて講演会を行い、広域ゼロメートル市街地では地震や火災だけでなく、水害への備えも大切であるということを学習しました。

どちらの避難場運営会議でも講演会後に、小学校の校長、PTA会長、地域の町会長らに当NPO・石川理事長、加藤准教授、葛飾区職員が加わって、ミニシンポジウムを行いました。非常時に備えた備蓄のあり方や災害時要援護者の把握や対応などについて議論が行われ、災害に備えて、地域住民、町会、PTA、学校、区、NPO、研究者・専門家が連携していくことの大切さが再確認されました。

### □上平井小学校避難所運営会議

日時:2011年11月27日

主体:西新小岩5丁目町会ほか

場所:上平井小学校 体育館

### □二上小学校避難所運営会議

日時:2012年2月26日

主体:東新小岩5丁目、7丁目、8丁目町会

場所:新小岩北地区センター



避難所運営会議の講演とミニシンポジウム風景

# 葛飾区有形文化財に登録された古井戸 —地盤沈下の生き証人—

山上忠

東京都第五建設事務所の古井戸の鋸びた手  
漕ぎポンプは2.5mの高さ迄突き出てよく目立  
ち、鉄管根元には沈下の歴史を示すペンキマ  
ークもあり、事務所を訪れる人達には地盤沈下  
の生き証人として馴染の姿となっていた。

東京都第五建設事務所の古井戸  
(地盤沈下の証人)



ステンレスの柵の説明文によると、このポンプは昭和13年に当時の中川改修事務所が設置し、昭和21年に深さ60m迄増し掘りされたとある。この豊富で良質な水を青写真の水洗い等に多用した五建出身者が現在もなお健在であるという。折しも戦後の急成長期で葛飾江戸川江東一帯では工業用水の汲み上げ増大と、直下で発見された天然ガスの大量採取が開始された。このため周辺の地盤は年間5~10cm程沈下するようになり、揚水規制法が効力を発揮する迄25年以上に亘り地盤沈下が続き、深い所では海面より4mも低いゼロメートル地帯となってしまった。この経緯を物語る貴重な生き証人が、五建と都営住宅の建て替えのため撤去される事を知り当NPOは、2010年10月これを保存しようと「広域ゼロメートル市街地研究

会」「葛飾区新小岩北地区連合町会」と連名で東京都知事と葛飾区長宛に保存願を提出し、保存活動を開始した。最初に井戸を避ける形で建築設計のやり直し、次いでファイバースコープ等による材質調査、歴史確認のためメーカーや五建OBの探し出し、高さ確認の測量、工事中の保全、将来の保存形態など活動と十数回の検討会議が行われた。参加したのは昭和初期にこれを作成した丸ハポンプ、鉄の専門家である新日鉄鉄鋼研究所、郷土と天文の博物館、東京都技術支援人材センター(旧東京都土木研究所)など多彩な顔触れに及んだ。活動の成果が実り、今年3月葛飾区有形文化財に登録された。終始積極的に活動に加わりをご支援を頂いた第五建設事務所、葛飾区都市整備部ほか関係機関の担当の皆様には深く感謝する次第です。なお、現在、井戸周辺は建築工事中で見ることができませんが、2016年工事完成後、敷地の一角に元の姿を現す予定です。

## 「市民防災まちづくり塾」見学会報告 —第61回利根川水系連合水防演習—

高田信一

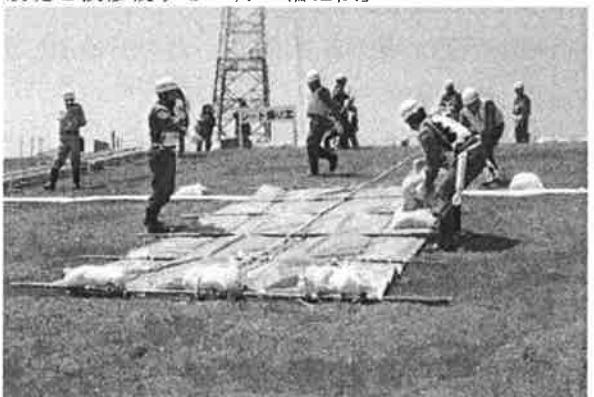
去る平成24年5月19日(金)に埼玉県久喜市栗橋先の利根川河川敷で開催された表題の水防演習の見学に、江戸川区の「市民防災まちづくり塾」のメンバーら40名と共に参加した。当日は前夜からの雨が止み雲一つ無い晴天の中で、午前8時50分に板東太鼓や自衛隊軍楽隊の演奏で始まったオープニングセレモニーには、演習実施者や見学者を合わせて15,000人が会場に集結していた。

開会式で国土交通大臣や埼玉県知事らの挨拶が終わると、早速地元水防団による堤防破堤を修復する月の輪工法やシート張り工法の実演が始まった。

その後も消防自動車20数台、ヘリコプター数機による、水陸両面の救出救難活動の実演が紹介され、会場全体に熱い余韻を残しながら、当日正午過ぎに無事閉会となった。



破堤を仮修復する「月の輪工法」



破堤を仮修復する「シート張り工法」

## 平成24年度葛飾区協働事業の体制づくり 「親から子に語り継ぐ大水害時の避難と パネル展示」について

増澤一郎

平成22年度行った葛飾区との協働事業が大きな成果をあげたため、平成23年度は葛飾区自ら提案し、当NPOと協働で実施する予定でしたが予算化されず実現に至りませんでした。

そこで、平成23年度改めて当NPOは「市民活動団体の自由な発想による事業」として「親から子に語り継ぐ大水害時の避難とパネル展示」を提案し、平成23年7月7日(木)第一次審査、同年9月2日(金)第二次審査が行われ、事業採択となりました。

本事業は、壊滅的被害をもたらした東日本大震災特に防災教育が充実した学校とそうでない学校で、明暗を分けた結果を踏まえ、地域の小中学校・同PTA・自治町会・区防災課の協力を得て、「大雨や大地震により堤防が決壊した際、生徒たちが安全・確実に避難できるようにする」をテーマとして家庭で子供と親が話し合い、その内容を学校に提出し、それを整理・編集する。それを学校行事等の場で発表する。

また、児童・生徒にかかる「災害と避難について」のパネルを作成し、学校行事に併せて展示を行うというようなイメージです。

これまで新小岩学園と上平井中学校及び大道中学校を地元の町長さん共々訪問し、校長先生、副校長先生に事業を説明、協力して頂けましたこととなりました。

これから事業の実施に向け、学校・同PTA・自治町会・区防災課関係者と打ち合わせ、内容を充実させていく予定です。



パネルを見ながらコミュニケーション

## 参加報告 「全国まちづくり会議 in 熊本」

東新小岩7丁目町会 百瀬 敏明  
口川尻地区視察で感じたこと

川尻地区は熊本市の南部に位置し、葛飾区以上に川に挟まれた地域で、用水が幾筋も地区内を流れている。葛飾区を流れる中川と同様に地区内を流れる加勢川も護岸工事が行われ、昔からの川とつながりをもった生活や自然が失われつつある。熊本市南部地区市民の会の村田幸博さんは、町並みや建物の保存、自然を含めた景観づくりなど、便利さの中で古き良きものの保存と住みやすい街づくりを目指し、また、子供たちとのふれあいを通じて街づくりを次世代へ引継ぐ努力もしています。島原湾に流れ込む緑川の自然を利用して、子供たちと交流をしている井村さんは、地域の自治会長で青少年指導員も兼ねており、「川遊び」を通じて子供たちに自然との関わり合いを伝承している。

地域活動は受け身ではなく「住みやすい街を自らが実践して作り出す」こと、また次世代に引き継ぐ努力の必要性を感じました。わが町において、自然や街の景観保護など、住みやすい街づくり、次世代への引き継ぎ等は参考にしなければと実感しました。

### 口会議に参加して感じたこと

会議のセッションで、介護を必要としている住民との関わり合いの活動において、要介護者の輸送手段や要介護者を把握するために個人情報保護の問題など、行政からの規制で活動に支障が出ているとの発表がありました。行政側も杓子定規に取り締まるだけではなく、地域活動に理解を示し改革を推し進める必要があると感じました。そのためには、地域住民だけではなく、区、消防、警察などの行政や近隣地域組織とも連携することで相互の信頼関係を強化していく必要があると思います。

活動の基本は、住民の安全・快適な暮らしを推進することで、我が町内会もさまざまな活動を行っていますが、住民が求める活動になっているか見直しの必要性を感じました。

また、挨拶の中で、「国民の義務、国民の権利」に

ついて話されていたことが心に残りました。「与えられるだけ、求めるだけ」ではなく、活動できる環境と教育の伝承が必要であり、調和が取れた社会の中から「自助・共助・公助」の精神が生まれ「支え合いと活気のある社会」が育つのだと思います。

### 口「城下町大にぎわい市」イベントで感じたこと

「灯籠のあかり」など、子供から大人までが参加できる企画で行事が行われていました。会場に坪井川も選ばれており、汚れた川を市民の手で生き返らせた誇りや、これからも川を守ろうとする意気込みが感じられました。行事に参加した市民がイベントを通じて喜びを感じ、忘れられない思い出をつくることで地元への愛着心が一層深まるのだと思います。我が町内会にも、何らかの形で皆が参加できる行事を企画していきたいと思いつつ、灯りに見とれていました。人とのふれあい、子供から老人まで様々な人が参加できる行事の大切さ、これこそが「信頼と絆」をより一層強めるのでしょうか。

### 口まとめ

会議に参加し、地域住民との信頼関係を強固なものにすることの大切さを学びました。

町内に新築マンションやアパートが建ち、地域のことを見ない若年層が増加しつつある現在、これらの方々の町内会行事への参加を促進し、「自助・共助・公助」の精神を理解していただき、地域住民の信頼を得ること、また子供たちとのふれあいを持つことで非行防止につながり、防犯、福祉活動の強化につながると確信しました。

1. 地域活動は受け身ではなく、自らが参加し活動することの必要性。
2. 地域住民とのふれあい、行事を共に作り、共に参加することから信頼関係・絆は強まる。
3. 「自助・共助・公助」の精神を次世代に引き継ぐことの大切さ。
4. 「わが街葛飾、わが町東新小岩」と胸をはれる街づくりに向けての活動を目指したい。

今回学んだことは、町内会の活動に早急に取り込んでいきたいと思います。(2010/11/3)

惜別

赤穂邦美さん

当 NPO 理事であられた赤穂さんは、葛飾区西新小岩五丁目町会長、葛飾区民生委員、児童委員協議会会长、上平井小学校避難所本部長、上平井小学校放課後子ども事業(キラットわくチャレ)運営委員＆リーダーを兼任するなど、地域に貢献する多くの活動を続けてきました。キラットわくチャレでは“地域のおじさん”として放課後、地域の小学生の宿題の面倒を見たり、遊びを教えたり、地域の子どもたちに親身に声かけしてきました。

「防災は世代を超えて連携が必要」などと、ワークショップや、若い世代、子どもたちへ地域の課題を伝承する活動に熱心に取り組んできました。3月18日のシンポジウムのパネリストもお願いしてありましたが「少し調子が悪いので場合によっては欠席かもしれない」とお電話をいただきました。そして5月、あまりに突然のことで、今も“地域のおじさん”は町の中にいるような気がします。

千の風にのって、これからも未来を担う子どもたちを見守ってください。(渡邊喜代美)



ワークショップのときもいつも熱心な赤穂さん



炊き出し避難訓練でご挨拶する赤穂さん



遠距離避難訓練で西新小岩五丁目の皆さんといっしょの赤穂さん（後列右から5人目）



避難訓練のとき“ジージ”に甘えてきた孫に声をかける赤穂さん

## <予告>「新小岩北地区・ポートを活用した防災訓練」2012・9・9(日)に行います。

新小岩北地区連合町会が、2012・9・9(日)にポートを活用した大掛かりな防災訓練を行います。訓練の場所は、葛飾区西新小岩 3 丁目上平井橋東詰から上平井水門までの中川です。

新小岩北地区連合町会の企画の協力団体は、本田消防署、上平井出張所、葛飾区、NPO ア！安全・快適街づくり、広域ゼロメートル市街地研究会などです。防災訓練の内容は、浸水などの非常時に役立てばと、ボートの組み立てや、操縦訓練のほかに、陸地においては救護の道具や操作、救護活動の仕方など行います。

直接参加できない場合でも、上平井橋あるいは上平井水門デッキから見ることもできます。

皆さんの結集を期待します。

(2012(24)年度東京都地域の底力再生事業)



昨年の訓練風景。今年度は連合町会で開催！



## <予告>24年度のシンポジウムの日時と会場を確定しました。

23年度に引き続き、「新しい公共」24年度「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」による最大イベント「大規模災害に備えて(仮)シンポジウム」(足立・葛飾・江戸川・地域・専門家・研究者連携)の日時と場所が決まりました。

日時:2013(25)年3月23日(土)PM1:00開場

場所:天空劇場(足立区立産業振興ホール400席)



東京芸術センターの21-22Fの天空劇場の内部



天空劇場のある東京芸術センターの外観

開催は来年の3月ですが、会場をキープすることがなかなか大変なご時勢で、先に会場日時が決まりましたが23年度に連続したかたちで内容について協議会で深めてまいります。

みなさま、予定表にご記入ください。

また、23年後のシンポジウムは大変好評でしたが、24年度シンポジウムへのご意見など、協議会の事務局をつとめます NPO ア！安全・快適街づくりへお寄せてください。

## 表紙の紹介

//////////////////////////////

墨絵:小川信子先生(日本女子大名誉教授・当NPOの評議員)

新中川と荒川を繋ぐ中川七曲の新タワーを見る場所を中川町会長の案内でたずねました。和紙に書かれた墨絵の素晴らしさが、普通の印刷では表現できずに残念ですが、七曲のゆうゆうとした風景は感じ取っていただけると思います。角を曲がるとまたちがった表情になります。異なった風情の3作から一枚を選びました。実際はB4版の薄手の上質な和紙で制作されています。印は「汀」です。

書:石川金治理事長

書は「中川に相応しい風景が見られなくなった理由 回復させるにはどうしたらよいかへの夢を皆で考えよう」という説明をいただいている。17号の表紙に使った作品ですが、小川信子先生の墨絵と石川理事長の書が合ったので再度採用しました。

//////////////////////////////



## 編集後記

NPO ア!安全・快適街づくりは、2002(平成14)年から10年間にわたり、安全・快適まちづくりをテーマに活動を続けてきました。

2011(平成23)年度は「葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会」を母体に「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」の立ち上げ、協議会によるシンポジウム、地域の中学校との連携、ワークショップ、地盤沈下の記憶“古井戸”的「葛飾区有形文化財」登録の実現、全国まちづくり会議への参加など多様な活動を展開してきました。シンポジウムでは地元の中学生にも研究発表をしていただき、その活動が全国発表に繋がるなど、うれしいニュースも在りました。

2011・3・11東日本大災害の復旧、復興活動はまだ緒についたばかりですが、低地帯に住む私たちに多くの教訓を与え続けています。今後は被災地との交流も予定されています。

これからも地域とともに、闘争的な活動を心がけ次世代へ繋げ、持続可能なまちづくりを希求していくたいと思います。皆様の積極的な参加をお待ちします。

現場に足を運んで表紙のために墨絵を書いてくださった小川先生、忙しい日々にがんばって記事を書いてくださった皆様、協働ありがとうございました。

2012・6・20 渡邊喜代美

特定非営利活動法人

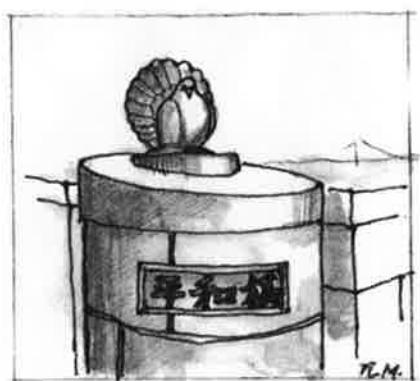
「NPO ア! 安全・快適街づくり」

〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩三丁目5番1号

電話／FAX 03-3696-7480

ホームページ:<http://www.banktown.org/>





NPO ア！安全・快適街づくりニュース

2012・06